

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑩特許出願公開
昭54—31104

⑪Int. Cl.²
B 60 C 21/08
B 60 C 17/00

識別記号

⑫日本分類
77 B 511
77 B 54

庁内整理番号
6553—3D
6553—3D

⑬公開 昭和54年(1979)3月7日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 8 頁)

⑭空気入りタイヤ

⑮特 願 昭53—98138

⑯出 願 昭53(1978)8月11日

優先権主張 ⑰1977年8月11日⑱イギリス国
(GB)⑲33691/77

⑳発 明 者 アラン・ジョン・ブーン
イギリス国ウエスト・ミッドラン
ズ・サットン・コールドフイー

ルド・カードワース・グレブフ
イールズ16

㉑出 願 人 ダンロップ・リミテッド
イギリス国ロンドン市エス・ダ
ブリユ—1セント・ジエームス
ズ・ライダー・ストリート・ダ
ンロップ・ハウス(番地なし)

㉒代 理 人 弁理士 湯浅恭三 外2名

明 細 書

1〔発明の名称〕

空気入りタイヤ

2〔特許請求の範囲〕

(1) ポリブテンから成る滑剤を含有するバンク用シーラントをその内面に塗布した空気入りタイヤであつて、該バンク用シーラントがアミドワックスを含有することを特徴とする前記空気入りタイヤ。

(2) 該ポリブテン滑剤が大部分アミドワックスによつてゲル化されたポリイソブチレンから成ることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のタイヤ。

(3) 該シーラントが固体粒状増量剤、例えばゴムくずを含有することを特徴とする特許請求の範囲第1または2項記載のタイヤ。

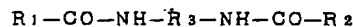
(4) 該ゴムくずがポリイソブチレンの比が重量基準で1対10〜7.5対10、例えば2対10〜6対10であることを特徴とする特許請求の範囲第3項記載のタイヤ。

(5) 該ポリイソブチレンが750〜約2500の範囲内の平均分子量を有することを特徴とする特

許請求の範囲第2、3または4項記載のタイヤ。

(6) 該アミドワックスが20重量%以下の量、例えば滑剤とアミドワックスとの総重量に基づいて3〜12重量%の量で存在することを特徴とする特許請求の範囲第1〜5項のいずれかに記載のタイヤ。

(7) 該アミドワックスは次式



(式中、R₁ および R₂ は同一であつてもよく、また異なつていてもよく、各々長鎖炭化水素基であり；R₃ はアルキレン基である。)

で示される化合物であることを特徴とする特許請求の範囲第1〜6項のいずれかに記載のタイヤ。

(8) 前記式中、R₁ および R₂ が炭素原子数12〜35のアルキル基であることを特徴とする特許請求の範囲第7項記載のタイヤ。

(9) 前記式中、R₁ および R₂ が、それらの炭素原子の総数が35〜50の範囲内となる様なアルキル基であることを特徴とする特許請求の範囲第8項記載のタイヤ。

(1)

(2)